かけはし

Vol.60
春号
2024年04月

暖かい日が増えてきて
色々な所で春を感じられるように
なりましたね^^

4～6月の税務・お知らせ

・申告所得税の口座振替日　・・・　4／２３（火）

・消費税の口座振替日　・・・　4／３０（火）

※預貯金残高のご確認を。

※源泉所得税の特例納付、社会保険の算定基礎届のご準備を。

お休みカレンダー

2024年　4月						
日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2024年　5月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2024年　6月						
日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/30	24	25	26	27	28	29

ビジネスプラン / あんの会計

〒698-0041　島根県益田市高津一丁目1番1号
TEL（0856）23-6116　FAX（0856）23-6674
E-mail　bplan@sx.miracle.ne.jp

ビジネスプランの仲間たち

今回のテーマは…

好きな季節

若葉のまばゆい新緑の季節（5月）が好きです。大自然からエネルギーをもらえる感じがして、元気が出ます。風もさわやかですし^^

安野　広明

春ですネェ！寒い冬を通り過ごし、仕事柄、確定申告が終わった後の達成感を味わうこの季節がいいです。

石川　秀樹

私の好きな季節はもちろん夏です。夏の海は最高です。何と言っても海に入ると身体が軽くなるのがいいですね。

田原　智延

暑い夏が好きです。汗をかくと「生きている」と実感が湧くからです。夏はやはりビールがうまい。

濵﨑　俊明

私の好きな季節は夏です。プライベートな時間が取りやすいので家族でドライブに出かけたり子供のスポーツの応援に行くことが出来るからです。

中島　大吾

"春"ですね。さくら、チューリップ、ツバラン、大好きな花の季節がやってきます。かわいらしい花に囲まれる幸せな季節です。ワクワクします♡

佐々木　康恵

月並みですが、春が好きです。ようやく暖かくなって、休みの日に布団から出ようという気になれます。イベントも多くなってくる時期なのも嬉しい。

原　光

「春」です。ポカポカした気候はいつまでも寝ていられる私にとって最高の季節です。これから来る春は楽しみです。

室田　直樹

「秋」です。過ごしやすい気候が一番の理由です。「味覚の秋」や「読書の秋」とも言われているので、そういった部分も愉しみたいと思います。

橋本　一輝

冬が好きです。温泉が大好きなことと空気が一番澄んでいる気がするからです。寒い朝に外で深呼吸すると背筋が伸びます。

増子　枝里子

出会いと別れが同時にやって来る春は新たなスタートの季節です。そのスタートを桜と共に穏やかで優しく包んでくれるそんな春が好きです。

石川　智恵美

わたしたちは、たくさんの"ありがとう"を集め、日本の中小企業を元気にします！

※ 過去のニュースレター「かけはし」は、弊社ホームページからご覧頂けます。

こんにちは、ビジネスプランの安野広明です。
1月1日に発生した能登半島地震から3ヶ月が経過しましたが、いまだに復旧作業が遅れているようです。被災された方々にお悔やみとお見舞いを申し上げますと共に、被災地の一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。
さて、4月からは建設業や運送業や医師等でも残業規制が始まります。既に備えていらっしゃるとは思いますが、それでも初めてのことなので、現場では何が起こるか分かりません。人手不足の中でのやりくりは、大変なご苦労かと拝察いたします。またこれに伴い利用者側でも、物流コストの上昇や納期の遅れ等は想定しておく必要があります。中小企業にとってはますます舵取りが難しい状況ですが、社内での協力体制を築き、チームワークで時代の荒波を乗り越えて参りましょう。
なお経済産業省より、コロナ資金繰り支援が今年6月末まで延長されることが発表されました。今後、資金繰りに不安のある方は、ぜひご検討下さい。ご不明な点は、弊社担当者にお問い合わせいただければと思います。
それでは春号もよろしくお願いします！

代表取締役
安野　広明

＊ メルマガのご案内 ＊

「人」と「組織」が成長するためのヒントや、セミナー情報等の提供を目的とした「安野広明のももくりメルマガ」（無料）を、メールで毎週配信しています。お気軽に右のQRコードよりご登録下さい。（ご登録後の解除も簡単にできます）

『「AI」の時代こそ「HI」を高める』

近年はAI（人工知能）の進化が注目されていますが、AIが最も苦手とするのは何でしょうか？
それは、「気付くこと」だそうです。AIは間違った回答をしても、間違ったことをしても、それが間違いだと自分で気付くことができません。であるとすれば、AIの時代に人にしかできない価値は、「気付く力」から生まれるのではないでしょうか。

したがって職場においても、「どうすれば気付く力を磨き、高められるか？」を真剣に考える必要があります。ただ、これがなかなか難しい・・。実は気付きにも、次のような意識レベルがあるそうです。①そもそも気付かない人、②気付いても動けない人、③気付いても動かない人、④気付いて即動ける人、⑤気付いて動いて共有する人
もちろん望ましいのは、⑤気付いて動いて共有する人ですが、そもそも気付けなければどうしようもないですよね。そこで私は、社内で成功事例を共有することを推奨しています。弊社でも毎月の会議で成功事例を共有しており、同僚の成功事例（＝お客様から「ありがとう」をいただいた事例）の中には、自分にはない視点もたくさんあって、気付きの宝庫です。

したがってどんな些細なことでもよいので、各自が現場で気付き、行動して喜ばれたことを、社内で共有する仕組みをつくる。そういった活動を地道に積み重ね、1人ひとりの「気付く力」が高まれば、組織としての気付きの総量も増えるのではないでしょうか。そしてそれはそのまま、人にしかできない価値を高め、決してAIに代替されることのない組織（チーム）になれると信じています。

AIの時代には、HI（ヒューマン・インテリジェンス）こそ高めていきたいものです。

セミナー報告

○ 1月に、出雲市にて「人を幸せにする経営計画書セミナー」を弊社主催で行いました。
21社23名がご参加下さり、質疑応答を含めた約３時間、熱心にご聴講いただきました。

○ 2月に、益田高校の3年生を対象とした「租税教室」の授業を行いました。

本の紹介

『なぜ、あの人には何でも話してしまうのか　心理カウンセラーのすごい「聞く技術」』

著者：山根　洋士

橋本　一輝

心理カウンセラーの山根洋士氏により出版されたコミュニケーションにおける「聞く」側の役割や技術を書かれた著書です。弊社の取り組みと重なる部分もあり、読んでみました。一般的なコミュニケーションのイメージとして、「話す側のトーク力」が重視されがちなのですが、「話を聞く側」にも話す側が話をしやすい環境を整えることや、話のポイントを聞き出す力など、様々なスキルを身に着けておく必要があり、それらのスキルについて書かれています。本文中のキーワードは「共感」「受容」「自己一致」の3つです。ぜひ、ご一読ください。

『幸せな人とは、自分が幸せだと思っている人』

「幸せな人」とはどんな人でしょうか？分かりやすい例でいえば、高収入・高学歴で、かつ、誰もが羨むような豪華な生活を送っているセレブな人は、一般的に幸せな人だと認識されると思います。
ではその場合、年収はいくらで、生活水準はどのくらいが幸せかどうかの境目なのか？おそらく人それぞれに感じ方が異なるし、明確な境界線は引けないはずです。

この点、ある本を読んでいると、幸せな人についての分かりやすい定義が書いてありました。それが、「幸せな人」＝「自分が幸せだと思っている人」・・です。「そのままじゃないか」と突っ込まれそうですが、でも確かに、どんな状況であっても、その人が幸せだと思っていれば「幸せな人」なんですよね。反論の余地がない、本質をついた定義だと思います。
であるならば、これとは逆に、不幸な人とはどんな人か？といえば、「自分は不幸だと思っている人」です。どれだけ収入や生活面が満たされても、自分よりも恵まれた環境の人と比較して自分は不幸だと思っている人もいらっしゃる訳で、いくら周りの人から「あなたは幸せ者ね～」と言われたところで、その人にとっては不幸なのです。

そして上記から言えるのは、自分以外の誰かが自分を幸せや不幸にするのではなく、どちらになるかは自分次第ということ。「幸せは自分の心が決める」と書けばありきたりに聞こえるかもしれませんが、それが真実なのでしょう。
その上で、何をもって幸せだと感じるのかは、自らの人間的成長と紐付きます。例えば、①何かをしてもらった時に幸せを感じるのか、②当たり前の日常に幸せを感じるのか、③困難すらチャンスと捉えて幸せを感じるのか。③のレベルでも幸せを感じられる人間性を養うことができれば、その人はきっと、幸せな人生を歩み続けるのだと思います。
私自身、まだまだその境地には至りませんが、人間的成長（→幸せな人生）を追求するべく精進したいものです。

『武器になるのは、「好きなこと」より「苦じゃないこと」』

ご承知の通り、仕事というのは（基本的に）毎日同じことの繰り返しです。したがって、継続しなければなりませんし、継続できなければ成果にはつながりません。よく「好きを仕事に」と言いますが、これが簡単ではない理由もまさに継続にあります。
分かりやすい例で言えば、いくらカツカレーが好きだからといって、毎日カツカレーばかり食べ続けたらさすがに飽きるし、その内、見るのも嫌になりますよね(^^)このように、もしも継続するのが辛いなら、いくら好きなことだとしても、それを安易に仕事にしない方がよいでしょう。好きなだけでは（仕事の）成果を出せないからです。

そして、この点に関しては、「好きなこと」よりも「苦じゃないこと」という視点が重要だと考えています。例えば私の場合、好きで経営者になった訳ではありませんが、経営の本を読んだり、セミナーを受けたりするのはまったく苦ではありません。なので、経営に必要な学びはそれなりに身に付けて来たと自負していますし、結果的に、それ自体が強みになっていると感じます。というのも、たまに同世代の経営者から、「よくそんなに本を読めますね」と驚かれるからです。私の中では頑張っているつもりはなく、ごく普通なのですが・・。
これとは逆に、人見知りな私は、パーティーなどの社交的な場があまり得意ではありません。そういった場に頻繁に足を運び、交流を深めている経営者を見ると、「自分には苦痛で、あんなことはできない」と心から思います。おそらく、その方にとっては、何の苦もない（むしろ楽しんでいる）のでしょうね。その社交性の高さは、そのまま、商売する際の強みになっているはずです。

このように、「苦じゃないこと」であれば無理なく継続できますし、そしてそれを仕事の中に取り込み、武器にすることができれば、成果にもつながりやすいのではないでしょうか。「好きなこと」も大切ですが、こと仕事においては、自分にとっての「苦じゃないこと」とは何なのか？を、いま一度、見つめてみるのもよいかもしれません。

『効率化や合理化の「反対軸」を意識する』

「一つの時代が究極まで行った時、その反対軸に、次の時代の目が見え始める」

これは以前、弊社の特別講演会で講師をおつとめいただいた、SYワークス・佐藤芳直先生の言葉です。
ご承知の通り、現在の世の中の流れとして効率化や合理化があります。そして、最小の努力で最大の成果を得ようとするのが、合理化の本質です。この大きな流れ自体は、止められません。したがって経営者としては、それを否定するのではなく、「いかにして自社に活用するか？」という発想も必要でしょう。

ただ、効率化や合理化が行きつく所まで行った時、反対軸に振れるのは、非効率や非合理の世界だと思います。佐藤先生の言葉をお借りすると、そこに次の時代の兆しが見えることになるでしょうか。そして、世の中で最も非合理なもの・・それが「人間の心」です。人は感情の生き物と言いますが、何をするにもいちいち感情に囚われ、必ずしも合理的な判断にはなりません。
その際に邪魔をするのは、自尊心だったり、承認欲求だったり。とにかく一筋縄ではいかないし、面倒臭いのが人間の心です（私を含め　汗）。
向き合おうと努力しただけ成果が得られる訳でもないため、まさに、非効率かつ非合理ですよね。それでも、そこから目を逸らすことなく向き合い続けていけるか？世の中が合理性を追求すればするほど、この観点がますます重要になると考えています。

ちなみに人間の心と向き合うといった場合、他人以上に、自分の心と向き合うことの方が大事です。自分の感情の動きが見えていない人に、他人の気持ちは分かりませんので。
例えば弊社では、10年以上前から毎月、「社内木鶏会」という人間学を学ぶ『月刊致知』を使った社内研修を行っています。それで売上が直接的に増える訳ではないので、合理性だけを考えたら無駄に感じるかもしれません。ただこれも、読書を通じて自分と向き合い、思考をまとめ、相手の意見に耳を傾け、美点凝視で他人の心に寄り添うという一連の訓練になっており、こういった人間性教育は、これから先の非合理の世界において必要になってくるのではないでしょうか。

効率化や合理化ばかりに走るのではなく、反対軸としての人間の心を磨くための非効率かつ非合理な取組みについても、次の時代への準備としてしっかりと取組みたいもの。弊社もまだまだですが、そんな風に考えています。

『「ミックス」ではなく「ハーモニー」という発想』

「和食には、混ぜるではなく、和（あ）えるしかない」と教わったことがあります。
西洋では、粉と卵を混ぜ合わせてパンを作るように、「混ぜる」ことでまったく違うものを作り出そうとします。英語にすれば「ミックス」です。
一方で日本の「和える」は、それぞれの違いを活かしながら、互いの個性や存在を尊重し、おいしい料理を作る。英語にすれば「ハーモニー」となります。混ぜる（＝ミックス）ではなく、和える（＝ハーモニー）。何気なく使っていますが、日本語は奥深いですね。

そしておそらく、こういった価値観や考え方は、日本的な経営にも反映されているのではないでしょうか。大企業の多くは欧米化してしまいましたが、日本の9割超を占める中小企業には、まだまだ残っている気がします。つまり、1人ひとりの個性を活かしつつ相乗効果を生み出す、まさにオーケストラのようなハーモニーを奏でるのが日本的経営なのです。
少し話は変わりますが、かの聖徳太子は、十七条憲法の第一条に「和を以て貴しとなす」と定めました。ご承知の通り、これは「皆が相手を尊重しあい、認めあって協調することがなによりも尊いものだ」という意味で、古の時代から日本人のDNAに刻まれているのだと思います。
「混ぜる」ではなく「和える」、「ミックス」ではなく「ハーモニーを奏でる」ようなイメージを持って、会社経営に取組みたいものです。